

都会の喧噪を忘れて

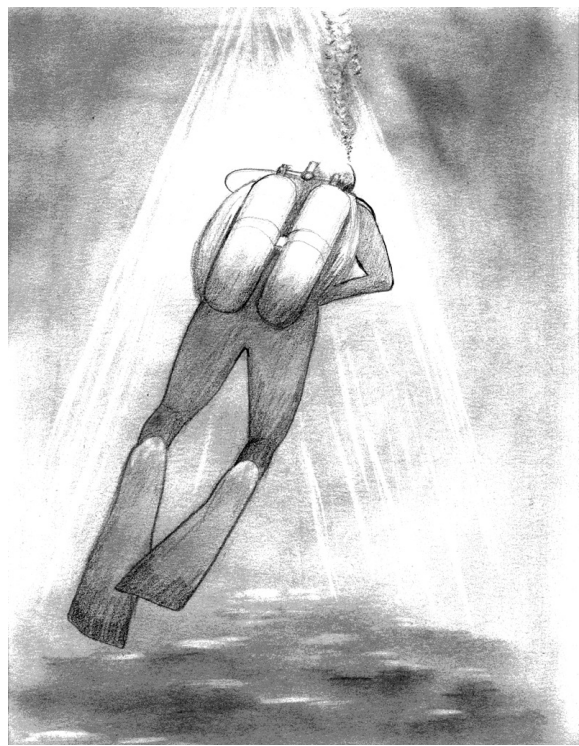
井上 博正(東大阪市)



リレーエッセイ 252

私は開業前の数年、沖縄の開業医で診療を行っていた。その時、診療の合間をぬって、よく海までダイビングに出かけたものだ。スキューバダイ

私は開業前の数年、沖縄の開業医で診療を行っていた。その時、診療の合間をぬって、よく海までダイビングに出かけたものだ。スキューバダイビングは、海中の不思議な世界を体験させてくれる素晴らしいスポーツである。



絵 藤田 進 (河内長野市)

沖縄の美しい海は、あたたかな太陽とどこまでも広がる水平線、白い砂浜、美しいサンゴや魚たちの出会いがある。

そこで潜り、魚や海底の風景を観察し、その美しさにただただ見とれてしまった。

エダサンゴ、テーブルサンゴ、ノウサンゴなど、のサンゴや熱帯魚や海へ慣れてくるとポイントで近海まで行った。

海底の世界を体感出来るまで上達し、カメラに乗って竜宮城に行った浦島太郎になった気分だった。潜るたびに新しい発見があり、今度は何を撮るべきか、こんな写真を撮るとうとうと、診療中ですら心が潤された。

カメラを持ってサンゴやイソギンチャク、貝にそこに棲む小さな生き物を絡めて、水面下への太陽の光を考え、造形的な写真を撮った。作品作りのスタンスで生き物に向かった。さまざまパフォーマンスの瞬間、瞬間にシャッターを切った。太陽に導かれて、透明な青に吸い込まれる豊かなサンゴ礁は、さまざま生き物をほぐくみ、美しい白砂を生み出す源。手足を浸せば染まりそうな程、青い海にそっと身を浮かべて輝く太陽のシャワーを浴びれば、生きている確かな美感を体中で味わえるはずだ。ほんの鳥で羽を伸ばすのもいいのではないかと思う。

井上先生ありがとございました。次回4月15日付は、井上先生のご紹介で、野崎潤先生(東大阪市)にバトンタッチされます。

政策部 特別寄稿

普天間で注目される米軍基地問題や日米安保条約について、政策部投稿を2回にわたり掲載する。

1月24日、米軍普天間基地「移設」を最大の争点とした名護市長選挙が行われ、基地建設反対の稲嶺氏が当選した。「沖縄にもう基地はいらない」という民意が明らかとなったが、平野官房長官は民意を無視する発言を行い、鳩山首相は「ゼロベースで検討、5月末までに結論を出す」といい、建設を撤回するの不明である。なぜ政府はこのような態度をとるのだろうか。皆さん一人ひとりが他人事でなく真剣に考えていただきたい。

いうまでもなく沖縄の米軍基地は、1945年占領した米軍が、住民を収容所に入れていた間に土地を奪って建設し、その後も「銃剣とブルドーザー」で拡大したもので、住民の同意を得たものでない強奪である。

平和条約が結ばれ施政権が返還された後も、政府は沖縄の人々の窮状に眼を閉ざし、真剣に基地に返還、住民の生活の回復に努力することなく65年が経過した。政府や「識者」、メディアは、安保条約によって日本は基地提供の義務がある、止むを得ないという論を展開している。

【第10条】「もっともこの条約が十年間効力を存続した後は、いずれの締約国も、他方の締約国に陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用することを許される」とある。しかし、このことだけをもち出すのは偏っている。

日本はアメリカの属国

YES? NO? ①

永田 悦夫(茨木市)

安保条約そのものは、日米双方が相手の意向にかかわらず、終えたいと通告すれば協議なしに、沖縄のみならず日本全土の数百に及ぶ基地のすべてが、びた一文も必要とせず、1年で返還されること、条約によって義務付けられているのだ。

現行の安保条約は占領下の51年に、全権団のうちから吉田首相一人だけがこそとサンフランシスコの下士官クラブで調印された旧安保条約を、60年に「対等なものに改める」として、岸首相が国民の反対を押し切って強行したものだ。この安保改定には、日本全土から国民の圧倒的多数の「アンポ反対」の声があがった。御堂筋一杯を埋めつくしたフランスデモに参加した私の世代は、その生き証人である。岸首相は辞職せざるを得ず、米国も日本国民の反感を気にして、10年後にはお互いが自由に行けることとする条項を入れたのである。

米国は日本国民を脅(なだ)めるため、「知日派」と称するライシャワーを大使に送り込み、後継の池田首相は「所得倍増」を唱えて国民の関心をそらした。以後、政府・財界・メディアは親米一辺倒に国民を誘導し、教育とマスコミによって国民は盲目にされ、米国以外の選択肢を失ってきた。その裏で日米両国は国民に隠して密約を結び、核兵器の持ち込みも、日本からの戦闘作戦行動も自由だと合意していたのだ。事前協議は一度も行われたことはなく、国民を欺く虚構であった。今日沖縄の海兵隊が、横須賀の艦隊が中東へ出撃し、自衛隊がその援助行動を行っていることは誰の眼にも明らか事実である。

米国は日本国民を脅(なだ)めるため、「知日派」と称するライシャワーを大使に送り込み、後継の池田首相は「所得倍増」を唱えて国民の関心をそらした。以後、政府・財界・メディアは親米一辺倒に国民を誘導し、教育とマスコミによって国民は盲目にされ、米国以外の選択肢を失ってきた。その裏で日米両国は国民に隠して密約を結び、核兵器の持ち込みも、日本からの戦闘作戦行動も自由だと合意していたのだ。事前協議は一度も行われたことはなく、国民を欺く虚構であった。今日沖縄の海兵隊が、横須賀の艦隊が中東へ出撃し、自衛隊がその援助行動を行っていることは誰の眼にも明らか事実である。

大阪府歯科保険医協会
Osaka dental practitioner's association

活動紹介「動画」を掲載
新点数説明会特設ページで最新情報を確認!!
診療報酬改定「新点数説明会」が開かれるこの機会に、ご子息や勤務医の先生にぜひご入会をお勧め下さい

大阪府歯科保険医協会 検索 または <http://osk-net.org/>

ホームページリニューアル

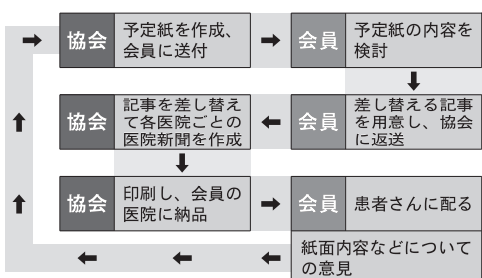
活動紹介「動画」を掲載

新点数説明会特設ページで最新情報を確認!!

診療報酬改定「新点数説明会」が開かれるこの機会に、ご子息や勤務医の先生にぜひご入会をお勧め下さい

医院と患者さんの定期便 医院新聞 共同発行会

医院新聞共同発行システム図



手間要らずで安価に

ベースは協会が責任編集
記事の一部は差し替え可能
各医院のオリジナル紙面

読者の声を「会報」という形で反映

隔月(奇数月)発行 B5判 4ページ建て(100部 14,100円から)
お問い合わせは 協会事務局 ☎06-6568-7731へ

医院独自の題子を作成(ロゴマークの使用も可能)

ふれあい歯科新聞

2007/7/8

12-345-6789

大阪府の歯科の発展を促進し、歯科医療の向上を図ることを目的として、大阪府歯科保険医協会が主催する「ふれあい歯科新聞」を発行しています。

この新聞は、歯科医療の現状や最新の技術、患者さんの声、歯科医の悩みや喜び、歯科医療の未来などについて、幅広く取り上げています。

また、歯科医療の発展を促進するため、歯科医の研修やセミナーの開催についても取り上げています。

ぜひ、ご入会ください。ご意見やご要望もお待ちしております。